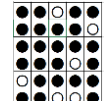
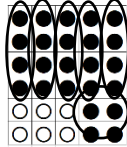
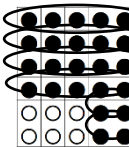
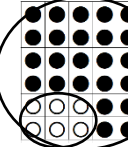
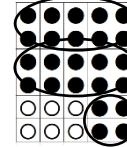
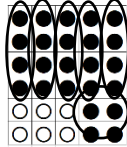
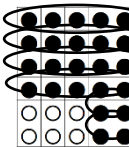
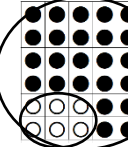
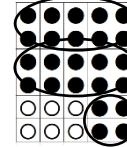
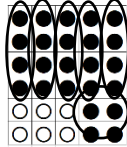
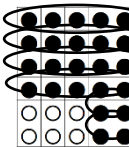
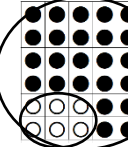
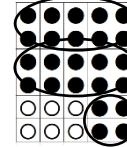











過程	教師のかかわりと予想される子どもの活動	形態						
つかむ	<p>黒は、何マス取っただろうか。</p> <p>*整地されていない図を提示し、数えにくいことをおさえる。</p> 	一斉						
見通す	<p>ほとんど取ってることは分かるけど、何マスとったかすぐには分からない。</p> <p>*整地された図を提示する。</p> <p>・これなら、数えやすくなる。 ・計算が使いそうだから、求められそう。</p> <p>*「計算が使いそう。」という子どものつぶやきや思いを拾い、学習問題につなげる。</p>							
追究する	<p>どんな計算をすれば、黒のまスの数を求められるだろうか。</p> <table border="1" data-bbox="231 515 1324 739"> <tr> <td data-bbox="231 515 494 739"> <p>①</p>  <p>4が6こ分で <math>4 \times 6 = 24</math></p> </td> <td data-bbox="494 515 766 739"> <p>②</p>  <p><math>5 \times 4 = 20</math> <math>2 \times 2 = 4</math> <math>20 + 4 = 24</math></p> </td> <td data-bbox="766 515 1037 739"> <p>③</p>  <p>全部のマスの数から白マスを引く。 <math>30 - 6 = 24</math></p> </td> <td data-bbox="1037 515 1324 739"> <p>④</p>  <p>10のかたまり2つと4 <math>10 + 10 + 4</math></p> </td> </tr> </table>	<p>①</p>  <p>4が6こ分で <math>4 \times 6 = 24</math></p>	<p>②</p>  <p><math>5 \times 4 = 20</math> <math>2 \times 2 = 4</math> <math>20 + 4 = 24</math></p>	<p>③</p>  <p>全部のマスの数から白マスを引く。 <math>30 - 6 = 24</math></p>	<p>④</p>  <p>10のかたまり2つと4 <math>10 + 10 + 4</math></p>	個↓ペア		
<p>①</p>  <p>4が6こ分で <math>4 \times 6 = 24</math></p>	<p>②</p>  <p><math>5 \times 4 = 20</math> <math>2 \times 2 = 4</math> <math>20 + 4 = 24</math></p>	<p>③</p>  <p>全部のマスの数から白マスを引く。 <math>30 - 6 = 24</math></p>	<p>④</p>  <p>10のかたまり2つと4 <math>10 + 10 + 4</math></p>					
	<p>*整地した結果を全員に配布する。図には、○を書き入れて、いくつずつのまとまりにしたのか分かるようにする。カードには、考えた式を書く。</p> <p>*個人で考える時間であるが、隣の子と相談することはよいことにしておく。</p> <p>☆悩んでいるAさんやBさん、Cさんには、ノートや学習掲示で学習を振り返るようにし、4のまとまりを作るという見通しをもたせる。</p> <p>○友達の考えた式を見て、どのように考えて、どうやって囲んだのか考えてみよう。</p> <p>*式を書きこんだカードを回収する。同じ式を集めて、黒板に提示し、式を共有する。</p> <p>*それぞれの式について、なぜその式ができたのかを、立式した以外の子が発表する。</p> <p>*子どもが、発表しながら黒板掲示用の整地図にもとの大きさを書き込むようにする。</p> <p>*リレー形式の発表にすることで、全員で立式について考えられるようにする。</p> <p>・<math>4 \times 6</math>は、4こずつまとめたものが6こ分できたってことだと思います。</p> <p>・<math>5 \times 4</math>と<math>2 \times 2</math>の2つの式があるのは、黒のまスを2つに分けたんだと思います。</p> <p>・30は、まスの全部の数を表しているんだね。全部数えたのかな。</p> <p>*全体での式を読みながら、「○ずつ△分」をおさえるようにする。</p> <p>○「<math>30 - 6</math>」の30は、どうやって求めたのだろう。</p> <p>・縦の5マスが6こ分あるから、<math>5 \times 6</math>ってことだと思います。</p> <p>・かけ算は、全部の数を求める時に、便利に使えるね。</p> <p>*④の考えが出なかった場合には、授業者が式を提示して考える。</p> <p>*式には表れていない乗法を探したり、乗法の利便性に気づいたりするよう助言する。</p>	一斉						
まとめる	<p>○どんな計算をすると黒のマスの数を求められましたか。</p> <p>かけ算や引き算、足し算を工夫してつかうと数が求められた。</p> <p>まとまりを作って考えると計算しやすい。</p>	一斉						
	<p>○式と図を結び問題に挑戦してみましょう。</p> <p><small>それぞれ別の式に○を囲んでみましょう。</small></p> <table data-bbox="223 1624 391 1825"> <tr> <td><math>3 \times 4</math></td> <td></td> </tr> <tr> <td><math>5 \times 3</math></td> <td></td> </tr> <tr> <td><math>4 \times 5</math></td> <td></td> </tr> </table> <p>・いくつずつ囲んであるのかを見れば分かるね。</p> <p>*式を読むことを行ってきたことをもとにして、それぞれの式がどの図を表したもののかを考えることができているか確かめる。</p> <p>☆式と図を結ぶことに戸惑っているDさんには、かけ算の式の意味をもう一度確認することで、いくつずつ囲んでいるのかに注目すればよいことがわかるようにする。</p>	$3 \times 4$		$5 \times 3$		$4 \times 5$		個
$3 \times 4$								
$5 \times 3$								
$4 \times 5$								
	<p>○分かったこと、感じたこと、友達の発表や授業で自分の考えが変わったことを書こう。</p> <p>・ゲームで取った陣地を数えるときには、かけ算を使うとよいことが分かりました。</p> <p>・2つのかけ算に分けてから足していて、すごいと思いました。</p> <p>・引き算の方法の中にも、かけ算があることがわかってびっくりしました。</p> <p>(評) かけ算や足し算、引き算を使って、友達がどのように図を見て計算しているのかを考える。(考え方: 整地図への書き込み、適用問題、振り返りカード)</p>	個						